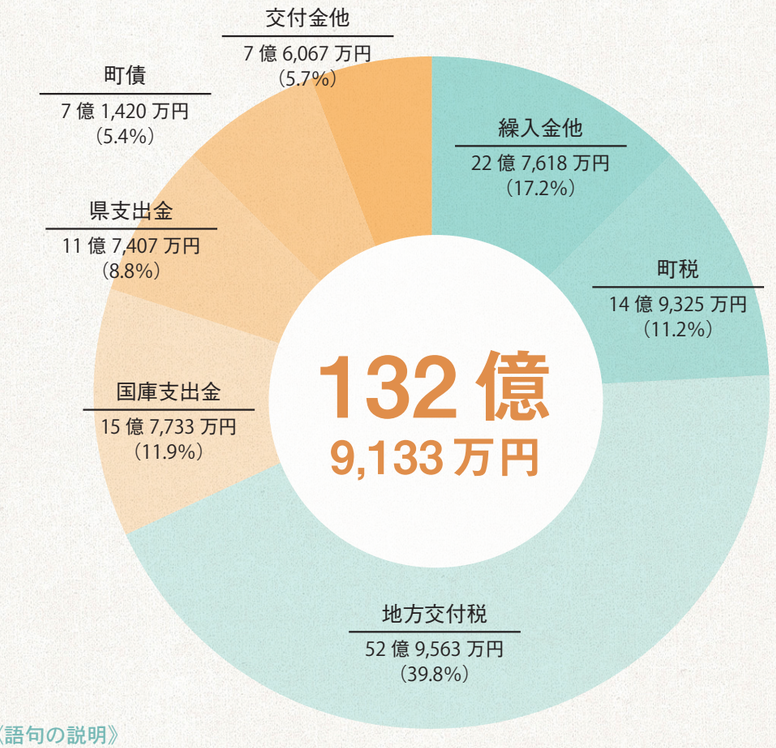
決　算　報　告

令和７年度決算が９月議会定例会で承認されました。第３期内子町総合計画に基づく財政運営が始まり、チョイソコ内子や共助型ライドシェアによる公共交通の再編が行われた他、小田深山渓谷、道の駅せせらぎ、旧森家住宅などの観光拠点の整備、無電柱化事業などの建設費の増加により、過去最大の決算規模となりました。町政は町民の皆さんや企業から納められた税金や、国からの地方交付税などをもとに運営しています。どれくらいの収入があり、どのような目的で使ったのか、決算の概要と財政状況をお知らせします。

1. 一般会計 歳入

決算額が132億円超え

依存財源は歳入全体の約72％を占め、最も比率の大きい普通交付税は６年度より８８６７万円多い47億２９７万円となりました。国・県支出金も７億３４６１万円増加しています。自主財源は小田自治センター空調整備などに公共施設整備基金を取り崩したため、２億６３２８万円増加しました。



《語句の説明》

※**依存財源**……国や県から交付されるお金や町債。グラフ中の「町税」「繰入金他」以外が依存財源
繰入金他……ここでは繰入金の他、繰越金、分担金及び負担金、手数料、寄附金などを含めている
町税……町民の皆さんが町に納める税金。町民税、固定資産税、軽自動車税、たばこ税など
地方交付税……どの市町村でも一定の行政サービスを行えるように、国から交付されるお金
国庫支出金……町が行う事業に対し、必要性に応じて国から交付されるお金（県支出金は県が交付）
町債……財政負担の平準化や世代間の負担の公平性などを図るため、国などから借りたお金
交付金他……地方消費税交付金やゴルフ場利用税交付金など、町の規模などに応じて交付されるお金

７年度の主な事業（抜粋）



坂町小公園整備事業
▶事業費：5,950万円



旧森家住宅第１期工事
▶事業費：１億8,370万円

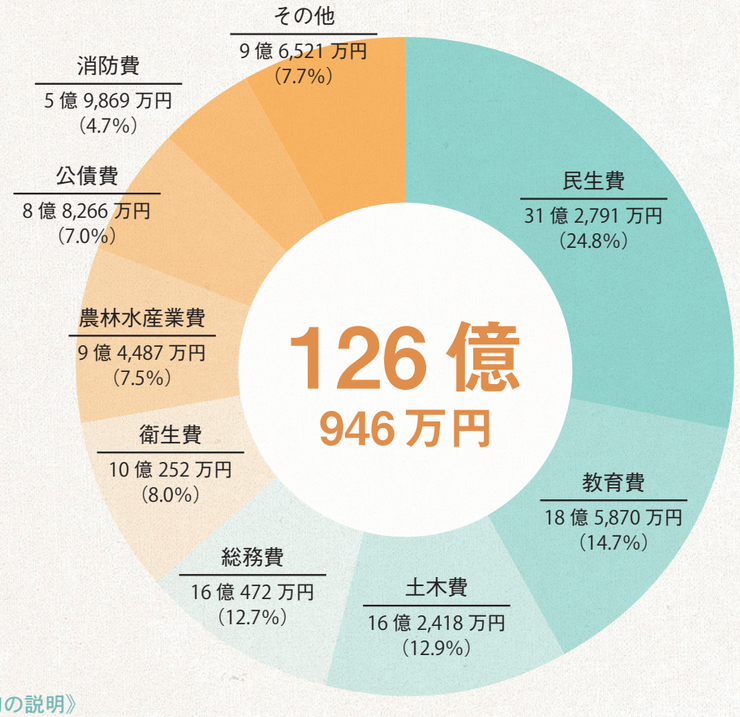


新川児童公園改修工事
▶事業費：7,473万円

2. 一般会計 歳出

内子座保存修理に約２億円

土木費は無電柱化事業、龍王公園整備事業、旧森家住宅整備事業などにより、６年度より３億４３０５万円の増加となりました。財源は国庫支出金や町債などにより確保しています。公債費は計画的な借り入れで町の借金が減っているため、元利償還金が２９６９万円減少しています。



《主な事業》（事業名／事業費）

７年度に実施した主要な事業を紹介します。

●総務費
▽暮らし応援商品券給付事業　６７７０万円
▽定額減税補足給付事業　５２５０万円
▽まちなか乗合タクシー運行委託　２３３万円
▽共助型ライドシェア導入実証業務委託　５８６万円

●衛生費
▽アクションプラン策定市民会議運営支援委託　６４９万円

●商工費
▽道の駅せせらぎ改修事業　５０４２万円
▽小田深山渓谷整備事業　２９７０万円

●土木費
▽無電柱化事業　７９０５万円

●消防費
▽Ｊアラート受信機整備　７１３万円

●教育費
▽内子座保存修理工事　２億７６万円

《語句の説明》

民生費……高齢者や障がい者、児童の福祉サービスの提供などに使われた費用
教育費……小中学校などの管理運営や施設整備、生涯学習の推進などに使われた費用
土木費……道路橋梁や公共施設の整備、維持管理などに使われた費用
総務費……総務管理、企画調整、地域振興、税務事務などに使われた費用
衛生費……町民の健康増進や、ごみの処理などに使われた費用
農林水産業費……農業、林業、畜産業の振興などに使われた費用
公債費……町の借入金の返済に使われた費用
消防費……地域の防災力の向上の他、広域消防の負担金や消防団の運営にかかる費用
その他……ここでは議会費、商工費、災害復旧費、諸支出金を含めている

（単位：万円）

特別会計名	歳入決算額	歳出決算額	差引額
小田分校寄宿舎	3,987	3,987	0
国民健康保険事業	17億866	16億2,571	8,295
後期高齢者医療保険事業	2億9,736	2億8,425	1,311
介護保険事業	28億7,852	26億8,382	1億9,470
介護保険サービス事業	1,394	1,394	0

3. 特別会計

安定的な運営を継続
全体で２億9,075万円の黒字

特別会計は一般会計と区分し、特定の収入と支出で経理を行う会計です。小田分校寄宿舎および介護保険サービス事業は、一般会計からの繰入金によって収支が一致しています。

4. 公営企業会計

内子・五十崎地区の配水管を耐震化
田中地区の下水道設備などを更新

《水道事業会計》大瀬中央鵜川地区で水道未普及地域解消工事を、内子・五十崎地区で配水管耐震化工事を、小田地域で旧簡易水道施設統合工事を実施しました。安全な水を提供するため、計画的に整備を進めます。

《下水道事業会計》田中地区マンホールポンプ設備更新工事、浄化センターの耐震・改築更新業務委託などを実施。今後も計画的に下水道施設を更新し、効率的に管理します。

●収益的収支
…水道水の供給、汚水の適切な処理に必要な財源と経費　（単位：万円）

会計名	収入	支出	差引利益
水道会計	4億3,030	3億7,750	5,280
下水道会計	2億5,803	2億5,532	271

●資本的収支
…水道・下水道施設を建設・改良するために必要な財源と経費　（単位：万円）

会計名	収入	支出	差引利益
水道会計	4億6,144	6億9,014	△2億2,870
下水道会計	1億2,130	1億7,622	△5,492

※水道会計・下水道会計の不足額は、これまで蓄えてきた内部留保資金などで補填（ほてん）しました。

5. 町債 —町の借金—

町民１人
当たりの借金
76万405円

町の借金残高は108億6,011万円
便益を受ける後世代の住民と現世代の住民との間で負担を分かつ機能

町債は大きな事業をするために借り入れるお金です。旧森家住宅整備事業に１億1,350万円、坂町小公園整備事業に3,330万円、内子座保存修理事業に8,230万円の他、施設や道路の整備、災害復旧などに合計９億3,160万円を借り入れました。一方で、11億2,088万円の元金償還を行いました

●町債残高の推移



決算審査意見

山崎公紀（きみのり）　代表監査委員
久保美博（よしひろ）　監査委員

7月14～21日に一般会計および特別会計、6月25日に内子町水道事業会計および下水道事業会計の決算審査を行いました。

決算審査は、内子町監査基準に基づき決算資料等を中心に、関係書類の審査、関係職員からの聴取、前年度の決算審査や財務監査における指導事項への対応状況などについて確認をしました。また多くの工事の中から一部を抽出し、工事監査（現地確認）も併せて実施しました。審査の結果、各会計の決算書および関係帳票などは、関係法令に準拠して作成されており、誤りのないものと認めました。また工事も適正に施行されていました。

現在、内子町は健全財政ですが、厳しい地域環境の中で従来通りの予算規模の確保は年々難しくなると想定されます。事業の実施に当たっては、引き続き補助金制度の積極的な活用、基金の適正な積立と活用、必要不可欠な事業の選択と集中、適時適切な予算の配分と実施に努めていただきたいと思います。

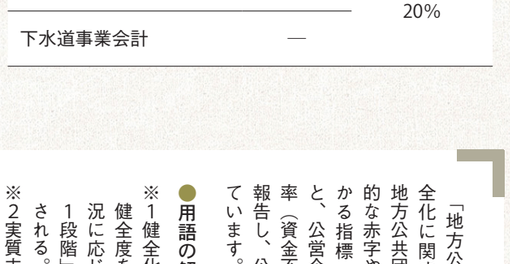
6. 基金 —町の貯金—

町民１人
当たりの貯金
50万4,555円

町の貯金残高は72億605万円
中長期的な財源を見通した財政運営

基金は歳入から歳出を引いて残っている金額があった場合に積み立てし、臨時の出費や財源不足が見込まれる場合に取り崩して事業費に充てます。７年度は「森林環境譲与税基金」から林業振興事業などに8,058万円、「公共施設整備基金」から旧立石自治会館解体工事などに３億630万円など、合計11億333万円を支出。一方で、財政調整基金などに合計３億8,676万円を積み立てました。

●基金残高の推移



7. 健全化判断比率・資金不足比率

７年度の実質的な赤字や将来負担などに係る指標「健全化判断比率」と、公営企業ごとの資金不足がどの程度あるかを示す「資金不足比率」をお知らせします。内子町はどの指標も基準を下回り、良好な状態にあります。

健全化判断比率 ※1

昨年度に続き財政状況は「健全段階」

一般会計などを対象とした実質収支は黒字です。全会計で資金不足はなく、安心できる状況です。「実質公債費比率」「将来負担比率」も国が定める早期健全化基準以下で、健全性を保っています。

健全化判断比率		７年度	基準 早期健全化	基準 財政再生
実質赤字比率	※2	—	14.08%	20.00%
連結実質赤字比率	※3	—	19.08%	30.00%
実質公債費比率	※4	3.0%	25.0%	35.0%
将来負担比率	※5	—	350.0%	

資金不足比率

すべての公営企業で資金不足はなく「安心」

公営企業ごとの資金の不足額が、事業規模に対して、どの程度あるかを示します。内子町は全ての公営企業で資金不足はなく、財政の健全性を保っています。

企業会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準
水道事業会計	—	20%
下水道事業会計	—	

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」により、地方公共団体は毎年度、実質的な赤字や将来負担などにかかる指標（健全化判断比率）と、公営企業ごとの資金不足比率（資金不足比率）を議会に報告し、公表することとされています。

●用語の解説

※1健全化判断比率…財政の健全度を表すもの。財政状況に応じて「健全段階」「第1段階」「第2段階」に区分される。

※2実質赤字比率…一般会計などの、標準財政規模に対する歳入総額から歳出総額を差し引いた額の割合。標準財政規模とは、普通交付税など、標準的に収入しうる経常一般財源の大きさをいう。

※3連結実質赤字比率…全会計の赤字額から黒字額を引いた額を、標準財政規模で割った比率

※4実質公債費比率…全会計と町が加入する他団体の会計で、標準的に収入しうる税金や地方交付税などのうち、借金の返済に使われている割合。（3カ年平均で表す）

※5将来負担比率…内子町が背負っているすべての借金の大きさを示す割合。